

教職 GP 公開講演

「授業を創りかえる 子どもの思いに寄り添いながら」

11月27日(火) 18:10～20:10

慶應義塾大学三田キャンパス大学院校舎1階 311 番教室

講師：西山俊彦氏(相模原市教育委員会)

司会：藤本和久(教職課程センター)

学習指導要領や教科書を議論する以前に、一人ひとりの教師にはその教師なりの教育内容・教材への理解の仕方(わかり方)があり、それを前提に、日々の授業を構想してしまいがちです。それゆえに、授業場面においては、子どもの思いや理解と教師のそれとがズレをおこし、結果として教師の“モノローグ”に終わる授業となってしまうことがあります。もちろん、これまで、このズレを解消すべく、教師たちは多大な努力を積み重ね、子どもたちがつまづかない・よくわかる授業(あるいは教材)を生み出してきました。しかし、その反面、子どもは教師の教えに対して受動化してしまうという逆説も見受けられます。

西山先生は、小学校において、子どもの思いに丁寧に耳を傾け、時には定型化したカリキュラムや授業に違和感を覚えてつくりかえてきました。その方向性は、決して、結果として子どもを受動化させてしまうようなものではなく、より積極的で、そしてより共同的な学びを生みだすことにつながっています。今回は、西山先生自身による、いくつかの実践場面を紹介していただきながら、子どもの思いや学びの実像に迫る教師の姿をお話いただきます。西山先生の子どもにむけられたまなざしのあり方は、教育現場における教師の「みとり」(評価)とは何かということ、私たち教職を目指す者にストレートに問いかけてくれることでしょう。

参加自由・無料

問い合わせ先：

慶應義塾大学教職課程センター

03-5427-1618

HP; <http://www.ttc.keio.ac.jp>

